

□プロジェクト報告□

JICA 中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト終了報告

藤沢 しげ子* 石井 博之* 秋山 純和* 潮見 泰藏* 丸山 仁司*

北京オリンピックを2008年に迎えて、各種競技場や地下鉄工事など開催準備の槌音が24時間休むこと無く、北京中に響き渡っている。JICAが2001年にスタートさせた「中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト」も、国際医療福祉大学から理学療法士、作業療法士併せて述べ51名の教員が参加し、5年を経てこの10月に終了した(資料1)。

中国社会のニーズに応じて国際基準に合った理学療法士・作業療法士を養成するという日中双方の多くの人々に支えられたプロジェクト活動の概略を報告する。

I. 背景

中国では1978年に改革・開放路線に転換してからの20年間余に社会主義市場経済という理念の下で、目覚ましい経済発展を遂げてきており、急速な経済発展に伴う工業施設や道路網の拡大による交通量の増加は労働・交通災害の急増をもたらし、身体障害者は約6,000万人に達しているといわれている。一方一人子政策の結果としての老人人口の増加は著しく、1999年10月1日中国の60歳以上の人口は1.26億人に達し、2020年には2.5億人に達すると予測され、急速な社会の高齢化が大きな問題となって来ている。さらに中国の慢性疾患患者数は2億人を超えており、その150-350万人にリハビリテーション医療が必要と推定されている。然るに現在のサービス能力は1万人にも達していない状況である。¹⁾

1996年中国衛生部は「総合病院リハビリテーション医療管理に関する規定」により、3級および2

級総合病院にリハビリテーション科を設け、リハビリテーション治療師を置くことを義務付けている。(ここでいう2,3級とは病床数に依る病院規模を示し、1級は20床以上、2級は100床以上、3級は500床以上の病院規模である。)しかしながら、リハビリテーション従事者特に理学療法士・作業療法士の不足は顕著であり、この養成が急務となっている。

中国におけるリハビリテーション政策では、日本政府が1986年中国障害者連合会の前身である中国障害者福祉基金会の要請に応じて、無償資金協力により中国リハビリテーション研究センターをリハビリテーション分野の臨床、研究、教育を担う総合機関として建設している。国際協力事業団はプロジェクト方式技術協力により、センター運営に必要な協力を行ってきた。現在中国リハビリテーション研究センターは病床数488床で40余の診療科を持ち、中国国内において唯一の3級リハビリテーション専門病院である。リハビリテーションスタッフの人員配置は、PT58名、OT27名、ST10名の中国国内における最大規模の施設となっている。

同センターはリハビリテーション医療の質と量の変化に対応できる質の高い大学レベルの理学療法士・作業療法士養成教育の実施を希求していた。しかし、大学レベルの教育を実施するには大学レベルの理学療法・作業療法を教えらるる教員がいないこと、教材が不足していることから、中国障害者連合会は、1997年日本政府に対し、中国リハビリテーション研究センターに理学療法士、作業

*国際医療福祉大学 保健学部 理学療法学科
Department of Physical Therapy, School of Health Sciences, International University of Health and Welfare

療法士養成校を設立することを求めている。

2000 年には JICA の中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト短期調査員として黒沢和生教授が参加している。

II. 中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト

2001 年 9 月 27 日北京において日本国際協力事業団実施協議調査団と中国人民共和国中国障害者連合会との間で「中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト」討議議事録が交わされた。日本側実施協議調査団団長として初代大学院長の初山泰弘教授が調印式に臨まれ、サインをされた。国際医療福祉大学は JICA の依頼を受けて理学療法学科、作業療法学科から人員を派遣し、2001 年 11 月 1 日から 2006 年 10 月 31 日まで 5 年間の技術協力プロジェクトが開始された。

このプロジェクト開始に先立ち中国および日本からリハビリテーション専門家を招き、9 月 22 日から 24 日まで「21 世紀第 1 回日中リハビリテーション医学学術シンポジウム」が広報を兼ねて開催された。PT 協会及び OT 協会からも代表者が出席した。

討議議事録 (RECORD OF DISCUSSIONS 以下 R/D とする。)には理学療法士、作業療法士が中国全土でサービスを行うことが上位目標として記され、プロジェクト目標 1. 国際基準に合った 4 年制教育を受けた質の高い理学療法士及び作業療法士の養成と 2. リハビリテーション医療専門職の養成レベルを専門学校から 4 年制教育に引き上げるが掲げられた。

中国リハビリテーション研究センター (以下リハセンター) は首都医科大学と提携し、1998 年リハビリテーション医学院を創立し、PT、OT、ST を育成する 3 年制の専門教育を開始していた。首都医科大学は医学部を含め 13 学部を持ち、在校生は 4,000 人余り、リハビリテーション医学院を含め 14 臨床学院を持つ、大規模な医科大学である。

この医学院の専門教育を大学 4 年制教育に引き

上げ、そのカリキュラムで学生を 4 年間教育し、第 1 期生を卒業させることがこのプロジェクトに要請されているのである。

プロジェクト活動は北京のリハセンターの 1 室に日本側からプロジェクト調整員 1 名と理学療法士・作業療法士各 1 名、中国側から事務員 1 名が常駐して活動することになった。中国側メンバーはセンター長以下各部署の長と教員候補予定者である。

1) 国際基準に合った PT、OT 4 年制教育のカリキュラムの作成

国家教育部 (文部省) の認可を得るためのカリキュラム作りからプロジェクト活動は開始され、カリキュラム作成のための各国の資料集めが始まった。世界理学療法士連盟 (以下 WCPT) や世界作業療法士連盟 (以下 WFOT) の基準等にあたり、最終的には日本の 4 年制大学のカリキュラムを参考に PT・OT 4 年制教育カリキュラム案を作成して、リハセンター側とすり合わせを行った後、さらに首都医科大学とのすり合わせを行った。中国ではまだ理学療法士、作業療法士の資格制度もなく、リハビリテーション治療師と称されている。そのため国家教育部 (文部省) の認可も首都医科大学リハビリテーション治療学理学療法専攻・作業療法専攻であった。4 年制教育は基礎教育を首都医科大学本校で行い、1 年後期から PT、OT の専門教育を中国リハビリテーション研究センターにあるリハビリテーション医学院で行った。2002 年 4 月 PT・OT 4 年制カリキュラム最終版が完成した (資料 2-1、資料 2-2)。総時間数は PT 専攻 3,321 時限、OT 専攻は 3,271 時限である。作業療法士養成カリキュラムは 2006 年 7 月に世界作業療法士連盟の承認を得た。

カリキュラムに合わせて日本人専門家派遣計画を作成した。

2) リハビリテーション医療の有能な教員の養成

教員養成のため、国際医療福祉大学大学院に留学して修士号の取得を目指す教員候補者の選考、留学準備指導をカリキュラムと平行して開始した。2002年4月から2006年4月までに日本へ派遣された15名の内、PT・OT各6名のカウンターパートが国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻に入学し、10名が1年間で修士号を取得して帰国した。PT・OT2名が2007年3月帰国予定である。また医師2名、義肢装具士1名の3名はPT・OT教育研修を終えて帰国している。教員候補者への本邦派遣前指導と帰国後の継続指導、更に勉強会が継続的に行われた。日本での研修等本プロジェクトの活動により養成された教員数はPT6名、OT6名、義肢装具士1名、神経リハビリ1名、総合外科1名合計15名である(資料3)。

3) 教員の教育技術の向上

視聴覚教材の活用・作成についての講習会、模範授業、臨床講義、視聴覚教材作成の援助、臨床指導、教学大綱(中国のシラバス)の作成、運動学実習計画作成の指導、臨床実習指導要綱を作成した。2003年から実際の学生教育に携わりながら一步一步進めている。

4) 教育管理レベルの向上

教育管理委員会、教務会議、臨床実習準備委員会、実習打ち合わせ会議を学年進行に沿って開催している。リハセンターの教育は1科目をオムニバス形式で多数の教員が分担して教える方式である。

5) 教材及び教育機器の整備

双方合意したカリキュラムに基づき、教材作成の準備に入った。教材作成にあたり中国側は既存の外国の教科書の翻訳ではなく新たに書き上げることを希望した。中国側からの要請に応じて各教材の細かい目次を日本側は提示した。2002年2月

国家教育部(日本の文部科学省)の教材出版に必要な批准番号が得られた。中国では教科書出版には国家教育部の批准番号が必要であり、大学の教科書は授業1時間につき約5,000字が目安である。2002年5月編纂テキスト19冊が決定し、教材編纂委員会が設置されテキストの編纂に入った。

中国全土の著名なリハビリテーション医学の専門家の参画の下に教科書が19冊出版された(資料4)。また実習に向けて運動学実習指導の手引きを含め実習指導書7冊、臨床実習大綱を作り、さらに教学大綱22科目、実習ノート2冊を作成した。視聴覚教材は27件作成されている。

カリキュラムの進行に先立ち、5年間のプロジェクト実施中に選定し、発注して検収された機材は545種1,086点であり、その総額は168,408,356円である。

6) 4年制教育の実施

2004年度には学生募集を行わなかった経緯があり、プロジェクトの中間評価の後にこの目標が追加された。

2002年9月首都医科大学リハビリテーション治療理学療法専攻・作業療法専攻4年制大学教育が開始された。(定員40名)入学者は、2002年度38名(PT25名・OT13名)、2003年度28名(PT17名・OT11名)、2004年度0名、2005年度40名(PT・OT未定)、2006年度40名入学(PT・OT未定)。

2006年7月2002年生38名が卒業した。内5名が大学院進学、PT13名、OT5名が中国リハビリテーション研究センター就職、他医療機関15名である。

2003年10月に第1期生の臨床実習の開始にあわせ、プロジェクトの広報も兼ねて「21世紀第2回日中リハビリテーション医学学術シンポジウム」が行われた。

2006年5月にはプロジェクトの終了時調査がおこなわれておりこのプロジェクトは優良の評価を得ている。

2006年8月19日から21日に第3回日中リハビリテーション医学学術シンポジウムとプロジェクト成果発表会を行った。

現在本学に派遣中の教員予定者と教育管理とFD (Faculty Development) 教員の自己開発のための2年間の延長を残して10月31日にプロジェクトは終了した。

2001年中国にはPT・OTを分けて教育する大学は無く、このプロジェクトが最初であった。現在、リハビリ治療師を養成する大学は32校を数え、プロジェクトで作成されたカリキュラムが参考にされたり、教材が使われたりするなどこのプロジェクトの波及効果が現れている。

中国リハビリテーション研究センターは、中国障害者連合会の傘下の組織であり、中国最大の近代的障害者リハビリテーション施設として、研究、診療、教育の中心的役割を果たしている。リハビリテーション医療技術を中国全土に普及させてゆけることと確信している。

日本におけるPT・OTの歴史を振り返ると感慨深く、このプロジェクトに参加する機会を与えられたことに感謝する。

文献

- 1) 李建軍, 2006, 中国リハビリテーション医学発展の現状と戦略, 第3回中日リハビリテーション医学学術検討会論文集, p278-282

資料1 JICA 中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト教員派遣状況(2001-2006年度)

年	指導分野	長期・短期 常駐	所属	職位等	派遣教員(期間)
2001	理学療法学	短期	国際医療福祉大学	助教授	藤沢しげ子 L (11.19-02.05.18)
	作業療法学	短期	国際医療福祉学院	専任教員	丹羽 敦 (11.19-02.05.18)
2002	理学療法学	短期	国際医療福祉大学	助教授 理学療法学科長 助教授 講師	黒沢和生 L (05.15-08.12) 丸山仁司 L (08.10-10.01) 潮見泰藏 L (09.26-12.23) 西條富美代 L (12.19-03.08.08)
	作業療法学	短期	国際医療福祉大学 国際医療福祉学院 柳川リハ専門学校	助教授 専任教員 専任教員	古川昭人 (07.19-09.20) 多賀 誠 (09.26-12.24) 西田征治 (12.26-03.08.24)
2003	理学療法学	短期	国際医療福祉大学	助教授	秋山純和 L (08.06-04.04.02)
	作業療法学	短期	柳川リハ専門学校 国際医療福祉大学	専任教員 教授	新川寿子 (08.19-10.31) 奈良進弘 (10.28-04.01.17)
2004	理学療法学	長期 短期	国際医療福祉大学 国際医療福祉大学	講師 教授	石井博之 (09.20-05.09-30) 藤沢しげ子 L (03.30-10.01)
	作業療法学	短期	国際医療福祉学院 国際医療福祉大学	学科長 助教授 教授	原口健三 (01.14-04.14) 菅原洋子 (04.10-08.27) 奈良進弘 L (08.09-11.30)
2005	理学療法学	短期	国際医療福祉大学	助教授	秋山純和 L (09.26-06.01.27)
	作業療法学	短期	国際医療福祉大学	教授 教授 専任教員	奈良進弘 L (02.24-06.09) 奈良進弘 L (07.21-11.30) 新川寿子 (11.24-06.03.02)
2006	理学療法学	短期	国際医療福祉大学	講師 教授	石井博之 (01.23-08.05) 藤沢しげ子 (07.31-10.31)
	作業療法学	短期	国際医療福祉大学	教授 講師 教授	奈良進弘 L (02.21-06.15) 丹羽 敦 (06.30-08.02) 奈良進弘 L (08.24-10.31)

年	指導分野	科目指導 短期	所属	職位等	派遣教員(期間)
2003	理学療法学	短期	国際医療福祉大学	理学療法学科長	丸山仁司 (09.03-09.23)
	作業療法学	短期	国際医療福祉大学	作業療法学科長	杉原素子 (09.21-09.29)
	言語聴覚学	短期	国際医療福祉大学	言語聴覚学科長	伊藤元信 (10.24-10.26)
2004	理学療法学	短期	国際医療福祉大学	講師 助教授 理学療法学科長	西條富美代 (08.06-08.19) 秋山純和 (09.01-09.14) 丸山仁司 (09.09-09.23)
	作業療法学	短期	国際医療福祉大学	講師 教授	山崎せつ子 (08.09-08.24) 荻原喜茂 (08.30-09.10)
2005	理学療法学	短期	国際医療福祉大学	助教授 講師	齋藤昭彦 (01.13-01.25) 藤田博暁 (01.13-01.25)
2006	理学療法学	短期	国際医療福祉大学	教授 講師 教授	潮見泰藏 (05.28-06.05) 金子純一郎 (05.12-05.19) 齋藤昭彦 (05.28-06.05)
	作業療法学	短期	国際医療福祉大学	理学療法学科長 教授 作業療法学科長	丸山仁司 (08.14-08.22) 荻原喜茂 (05.12-06.02) 杉原素子 (07.31-08.10)

(注1) 名前の後ろのLは、プロジェクトリーダーとして派遣されたことを示す。

(注2) JICAの規定により、「長期」は1年以上、「短期」は1年未満の派遣を云う。

資料2-1 首都医科大学リハビリテーション治療学 理学療法専攻カリキュラム

順序	科目	学期毎に実施		時限数			学年毎及び学期分配										
		試験	小テスト	合計	理論	実験・実習	I 学年			II 学年			III 学年			IV 学年	
							第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第5学期	第6学期	第7学期		第8学期		
							週数	週数	週数	週数	週数	週数	週数	週数	週数		
						17	18	17	20	20	18	8	19	19			
毎週の時限数																	
1	大学生思想道徳修養及び医学倫理学		1	32	32		2										
2	毛沢東思想概論	1		36	36		2										
3	法律基礎		2	36	36			2									
4	マルクス主義政治経済学原理		3	36	36				2								
5	鄧小平理論概論		3	54	36	18			3								
6	マルクス主義哲学原理		4	54	36	18			3								
7	軍事理論		3	40	40				40*1								
8	体育	1-3		96		96	2	2	2								
9	英語	1-4	5-6	316	316		4	4	4	4	2	2					
10	医学物理学	1		84	51	33	5										
11	医用化学		1	72	72		4										
12	生物力学		1	32	32		2										
13	コンピュータ基礎		2	54	36	18		3									
14	データベース言語		3	54	36	18			3								
15	人体解剖学	1		140	46	94	9										
16	組織学及び胚胎学	2		60	42	18		3.5									
17	生物化学	2		54	42	12		3									
18	生理学	2		118	82	36		6.5									
19	人間発育学		2	30	30			1.5									
20	リハビリテーション医学概論		2	30	30			1.5									
21	心理学		2	30	30			1.5									
22	病理生理学	3		60	44	16			3.5								
23	運動学	3		130	85	45			7.5								
24	病理学		3	40	26	14			2.5								
25	薬理学		3	36	36				2								
26	医学統計学		3	30	30				2								
27	外科学(整形外科学)	4		90	45	45			4.5								
28	診断学	4		60	30	30			3.5								
29	内科学	4		60	30	30			3.5								
30	神経病学	4		60	30	30			3								
31	老年病学		4	26	18	8			1.5								
32	理学療法概論		4	30	30				2								
33	精神病学		4	60	30	30			3								
34	小児科学		4	36	18	18			2								
35	運動療法技術学	5		180	90	90				8.5							
36	理学療法評価学	5		150	90	60				7							
37	中国伝統リハビリテーション治療学		5	100	60	40				5							
38	リハビリテーション心理学		5	20	10	10				1							
39	運動療法学基礎		5	30	20	10				1.5							
40	物理療法学	6		70	40	30					3.5						
41	臨床運動療法学	6		200	110	90					10						
42	日常生活活動学	6		105	60	45					5						
43	言語療法学		6	30	20	10					1.5						
44	義肢装具学		6	60	30	30					3						
45	リクレーション療法学	7		30	15	15						3.5					
46	作業療法学	7		75	40	35							9				
47	地域リハビリテーション概論		7	20	10	10							2.5				
48	地域理学療法学		7	30	30								3.5				
49	作業療法概論		7	15	15								1				
50	理学療法研究		7	30	15	15							3.5				
総時限数及び週時限数				3321	2204	1117	28	30	28.5	27	25	25	23				
毎学期の科目数							8	11	10	9	6	6	6				
試験科目数							5	6	4	5	3	3	2				
小テストの科目数							3	5	6	4	3	3	4				
選択範囲								2*16	2*16								

卒業実習37週
(理学療法科, 作業療法科, 義肢装具室, 中国伝統リハビリ科で36週。卒業試験1週)卒業教育時間は別途定める。

注: 英語1-4 学期毎学期64時限, 第5, 6学期は専門英語とする, 毎学期30時限

資料3 JICA 本邦派遣人員

氏名	研修分野	本学での 研修期間
劉建華	大学院修士課程(理学療法)	02.03.26~03.03.18
劉建宇	大学院修士課程(理学療法)	02.03.26~03.03.18
扈紅	大学院修士課程(理学療法)	02.03.26~03.03.18
李潔輝	大学院修士課程(理学療法)	02.03.26~03.03.18
閻曉梅	大学院修士課程(作業療法)	02.03.26~03.03.18
劉璇	大学院修士課程(作業療法)	02.03.26~03.03.18
何静傑	神経内科(リハ医療・医師)	03.05.07~03.06.06
		04.02.09~04.02.27
王曄	外科学(リハ医療・医師)	03.05.07~03.06.06
		04.02.09~04.02.27
劉恵林	大学院修士課程(理学療法)	04.04.10~05.03.27
陳彤紅	大学院修士課程(作業療法)	04.04.10~05.03.27
王林	義肢装具士	05.04.30~05.07.31
顧越	大学院修士課程(作業療法)	05.04.10~06.03.27
戴東	大学院修士課程(作業療法)	04.04.10~05.03.27
常冬梅	大学院修士課程(理学療法)	05.04.10~現在
呉葵	大学院修士課程(作業療法)	05.04.10~現在

資料4 出版教材19冊リスト
理学療法専攻・作業療法専攻

	教材名	字数(千字)
1	リハビリテーション医学概論	180
2	運動学	500
3	人体発育学(人間発達学)	200
4	理学療法・作業療法概論	220
5	臨床運動療法学	500
6	日常生活技術と環境整備学	450
7	運動療法技術学	920
8	障害者スポーツ学	380
9	基礎作業療法学	250
10	言語療法学	290
11	理学療法・作業療法研究	260
12	義肢装具学	500
13	地域理学療法学	330
14	理療学(物理療法学)	380
15	リハビリテーション評価学	900
16	臨床作業療法学	900
17	リハビリテーション心理学	360
18	中国伝統リハビリテーション治療学	730
19	職業関連活動学	160